

## 創刊にあたって

『札幌市文化資料室研究紀要』の創刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当文化資料室は、『さっぽろ文庫』や『新札幌市史』等を編集発行する傍ら、長く歴史資料館的な業務も続けてまいりました。そこで市史完結後の組織として、当室の存在意義を検討した結果、市立公文書館への発展的移行を目指す選択肢が次第に有力となってきたのです。

本市では過去三次にわたる五年計画の中で公文書館に関する調査事業が採り上げられ、平成十六年四月に公文書館の設置に向けての『基礎調査結果報告書』がまとまりました。そして昨年十月には「札幌市公文書館基本構想検討委員会」が設置されて、いよいよ当室を巻き込みながら、公文書館の開設を目指した具体的な動きが始まろうとしています。

こうした開設準備環境が整いつつある中で、当室の喫緊の課題は公文書館に速やかに移行するための布石形成、すなわち開設準備期より将来の公文書館業務を先取りしつつ、そのレベルを高めることにあると考えます。その具体策の一つが外に向けて調査研究の成果を情報発信していく『研究紀要』の発刊でした。

このたび創刊の運びとなった『研究紀要』では、その副題が示すとおり、当室が公文書館へ移行していく全過程を関係講演や論文などできるだけ忠実に跡付けていきたいと考えています。

関係者の方々にはぜひとも本誌をご高覧いただき、さらなる編集内容の充実のためご指導ご鞭撻を賜われれば幸甚の至りです。

文化資料室長 長岡 大

平成二十一年三月